

第2回府中町単独自治調査研究審議会 議事録

- 日 時 令和8年7月29日（水） 14:00～15:35
- 場 所 府中町役場 本庁5階 第1委員会室
- 出席委員 石田委員、上之園会長、大東副会長、梶川委員、坂本委員、宍戸委員、篠永委員、竹中委員、田村委員、内藤委員、二宮委員、花田委員、益村委員、門前委員、山本委員、米田委員
- 欠席委員 小濱委員、鈴木委員
- オブザーバー 広島県 地域政策局 市町行財政課 岩本参事（代理出席）
- 町出席者 寺尾町長、桑原副町長
- 事務局 谷口総務企画部長、藤永政策企画課長、西山政策企画課課長補佐、浅田主査
- 内 容
 1. 開会
 2. 町長あいさつ
 3. 資料説明・意見交換等
 4. 事務連絡
 5. 閉会
- 配付資料
 - 【資料1】 配席表
 - 【資料2】 住民向け活動の概要
 - 【資料3】 住民アンケート（案）
 - 【資料4】 経費の概要
 - 【参考資料1】 住民説明会議事録
 - 【参考資料2】 頂いた質問への回答

●概要

1. 開会
2. 町長あいさつ
3. 資料説明・意見交換等

資料2～4に基づき、事務局から説明

(花田委員)

住民向けの説明会を行い、住民の反応をどのように感じたか。

(町長)

同じ人が何度も来ていることや、特に意見がある人が来ているということもあり、住民全体の意見が万遍なく出ていると言えるかどうかは難しいが、率直に言うと、厳しい意見や、町のままでいいという意見が多いと感じている。ただし、意見としては町自体を否定しているわけではなく、まちを良くしていくために、今の「人口日本一の町」で進めるのもいいのではないかとといった意見が多いと思っている。

私としては、人口5万人になった町として次のステップを目指すことや、人口が減っている状況を踏まえ府中町でしかできないアピールの方法として市制施行をご理解頂きたいと言っており、理解を頂ける方もいらっしゃるが、総じて言えばなかなか厳しいというのが率直な感想である。

まだ11月のアンケートまで時間があるので、私自身の思いを伝えていきたいと思っている。

(花田委員)

説明会の議事録を見た感想だが、第1回の審議会で意見をしたことと同じような質問がされており、それに対する行政の回答が的を射ている感じがしない。ずっと同じ回答をしており、全然噛み合っていないので、これだと理解してもらえないだろうというのが率直な印象である。

名前を捨ててまでやらなければならないことなのか、これが最優先の取組なのかと聞かれたら、これは一つの手段であると答えている。一つの手段であるならば、“他にもアピールするためにこういう手段もあります”と選択肢を提示されれば前向きに捉えられると思うが、そうではなく、いきなり市制と言われたら“何故市制なのか”という話になる。

それで、その効果について聞かれると曖昧な答えしか返ってこない。その辺りを

もう少し踏まえて、突っ込んだ議論ができるような状態にしていきたいと思います。

審議会であるので、我々は頂いた情報を確認しながら評価をしなければならないが、なぜ市になる必要があるか、現時点では評価すべきことが何も無いので、私自身も何の評価もできないという意見をまず述べさせていただく。

(山本委員)

住民投票をしないなら市になるメリット・デメリットをはっきり説明した方が良くと思うが、回答としては市になっても変化は無いということであった。一方で、市になれば、情報収集で有利になることや、建設や道路について県や国に仰ぐことなく直接実施できるようになることもあると思うので、そういった具体的なことを示していただければと思う。

もう一つは、老人会で説明会を行った際に、アンケートの項目で市の名称があることについて、市制へ誘導しているのではないかといった反発もあったが、11月のアンケートも同様の内容で行うのか。

(事務局)

質問の意図としては、市制を施行する場合、名称もいずれは議論する必要があるため、住民の意見を伺う一つの方法として、この機会を考えているところである。

一方で、市制施行に反対なのに名称を書く必要があるのかという意見も聞いているため、アンケートの構成については検討の余地はあると考えている。

(町長)

補足すると、このアンケートの回答用紙は、町が独自に作ったものではなく、過去に市になった自治体の例を参考にしたものである。また、回答の方法については、問1の1に丸をした人が、問2を回答するといったイメージである。

そういった点が分かりやすくなるよう、記載を変えることはあるかもしれない。

(田村委員)

住民説明会が8月8日で終わりになっているが、住民から見ても町が説明を尽くしたと言える状態なのかということがある。住民がモヤモヤした気持ちでアンケートを迎えることはあってはならないと思うので、住民が納得できるよう、説明は続けた方が良いと思う。

また、アンケートについて、家族で話し合っ代表者が記入するとあるが、夫婦間や親子間で意見が違ったらどうするのかという声を多くの方から聞いている。一部の声だけで全体の民意となてはいけないので、誰もが納得するアンケートの取り方を考えるべきである。

その他に、“住民の皆様の意向を踏まえ”という表現が漠然としており、反対意見が多かったらどうするのか、どのように意向を踏まえるのかなどを住民に示した方が良いと思う。

(門前委員)

市の名称についてだが、安芸府中高校や安芸府中文化協会など、今でも安芸府中と付いている。違う名称にされても困るということで、安芸府中市でいいのではないかと思う。

もう一つは、5万人の町でも良いと言う人もいるが、5万人の町を自慢しているのは府中町の内部の人だけである。外から見たら町は町であり、呉や加茂地区の会議に出席しても、呉市、東広島市、江田島市、安芸郡4町という扱いをされている。5万人の町をブランドにすれば良いというのは、府中町に住んでいる人が勝手に思っているだけだという感じがするため、市になった方が良いと思う。

また、私も住民説明会に出席したが、理路整然と順序立てて反対をしている人がおり、まるでプロの人がやっているようであった。これでは皆引っ張られるという感じがあり、もし他の会場でもそうであれば、これは明らかに反対のための反対であると感じられる。

(花田委員)

私に対しての意見だと思うが、今回配られた議事録を見ても、どう考えても説明が尽くされているとは思えない。どう評価したらいいのか、なぜ市制にしなければならないのかを明確に答えていないというのが率直な感想である。

先ほど門前委員の話にあったが、外から見た人の意見をどうやって聞いたのか。我々住民が未来に向けてどうしていくのか声を発するべきであって、外の人が言うことではないと思う。

市になるべきかという提案を我々が行政から頂いたのであれば、その説明をしっかりと尽くすべきである。今の情報量では私自身納得できないし、効果について検証した情報も出てこない。

かかるコストがいくらと言うが、効果があるならいくらコストがかかっても良いと思う。コストの話ではなく、将来に向けて我々が本当にそれでいいのか、どういうまちづくりをしていくのかを考えるべきであり、その考えるべき材料が足りないので何の評価もできないというのが私の意見である。

(大東副会長)

市制移行を進めるかどうかについては色々な意見があり、実態として難しいことだと思う。自治であるため、もちろん住民が主体であるべきだが、一方で、自治体

は必ずしも自分の自治体だけで存在しているわけではなく、他の自治体と良い関係を持っているからこそということもある。

先ほどコストの話があったが、参考までに、鉄道の駅の名前を変えるのも大体同じくらいのコストがかかるものであり、効果があるならば良いことだと思う。

私の勤めている広島工業大学は佐伯区にあり、佐伯区は合併して大きくなったが、元はほぼ五日市町であった。かつて五日市町は人口9万人で人口日本一の町を自慢にしていたと、私が大学に来た頃、古参の先生が言っていたことがある。

私自身は生まれも育ちも奈良県であり、縁があって広島に来て20年以上経つが、この間日本の人口は減少し、府中町の人口も減ってきている。このような状況の中、もっと早く人口が減っているところもたくさんある中、府中町は最近まで人口が増えていたということがあり、第三者的な立場から見ると、府中町は気候も良く、住宅地や雇用があり、非常に恵まれた土地である。やはり人口を支えるのは雇用であり、自治体の人口問題を見ると、雇用こそが人口を支える要素であると考えている。そして、雇用があるということは、その中には当然商業があり、そして暮らしがあるということである。

長期的に考えれば日本の人口は減っていくが、ここへ来て減少の差が露骨に出てきたように思う。いかに減らさないかということをはっきりと行政の文章で表明することは難しいが、府中町は現時点でこの程度の人口減少であり、ポテンシャルは高いと思う。

そして、今回市制に移行するというところで、色々な意見があるということは、やはりそれだけ皆が府中町のことと思っているということである。今が非常に良い暮らしをしているからこそ、何かおかしいことがあったら困るという不安が皆にあるのではないかと思われ、そういった意見が出るのは当然のことだと思う。

これについては、メリットやデメリットということもあるが、もう一步踏み込んだ、皆が良いと思えるような詳しい説明が必要ではないかと思う。色々な意見が出るのは、皆が府中町のことを良いと思っているからであり、私のような他所の者が見てもそのように思う。だからこそ、皆が納得するような説明が必要である。

例えば、住民アンケートについて、いきなり市の名前を聞くのはいかがなものかという意見もあった。これについては色々な方法があり、私自身もこれは判断しかねるところである。

もう一つは、府中町には5万人の人口があり、これについては維持できるだろうと思っている。自治体というのは自治であるので、あくまでも住民のものではあるが、同時に周辺に対する責任もあると思う。

人口がかなり減っている市もあり、そういうところにも行ってきたが、非常に苦勞している。そういうこともあって、市と町では単にネーミングの問題だけでなく、責任が違うと思う。自治というものが≡自由だとするならば、自由には責任が伴う。

人口が5万人いるのならば、周辺に対してそれなりの責任を負うべきではないかという意味も含めて、皆様には総合的に考えていただければと思う。

（花田委員）

例えば益村委員が前回言われたスマートシティのように、未来への取組がセットで提示されて、だから我々は町ではなく責任ある市になるというような説明をしてもらいたいと言っている。今、感情的になっている部分もあるが、反対派というわけではなく、現状の不具合や未来の在り方など、具体的な情報が無いと審議ができないと繰り返し言っている。

もし外から見て責任があると言うのなら、府中町がなぜ市にならないのかと言っている都市があるなら教えてもらいたい。そういう情報を出さずに、何となく曖昧な情報を出しており、私から言わせるとその方が印象操作のように感じられる。具体的な情報を出して我々が理解できる状態にさせていただかないと、審議会の意味が無い。多くの方がこの場に来て時間を取っているわけであり、これも市制に係るコストになるのであれば、実りある議論ができるような状態にしていきたいと思う。

（大東副会長）

決してどこの自治体が府中町の責任について言っているというわけではなく、私の印象で話していることである。その上で言いたかったことは、やはり何か判断材料や具体的なことを出し、皆が納得しないと駄目であるということである。

（米田委員）

私も住民説明会に出席したが、市制施行よりも住民サービスを優先させることや、具体的な数値目標が無いことについての意見が多かった。

先日、国会で副首都構想が決まり、昨日の新聞には横田知事が副首都構想に賛成、広島県も立候補するということが出ていた。色々と意見はあると思うが、広島県だけでなく、府中町も頑張ってほしいと思う。

広島県では、原爆ドームや宮島が世界遺産に登録されており、お金を使って世界に発信している。今回も奈良で世界遺産の登録があったが、かなり金を使っている。このように、府中町もこれからどんどん大きくなっていけば良いのではないかと考えている。

（益村委員）

住民説明会の内容を見ると、具体的なことを多く質問されているという印象があり、それに対する自治体側の回答が、どうしても1対1の対応になっているように

見受けられる。市制移行への不安が大きいのは事実だと思う。

行政のすべきこととしてビジョンを示すことは以前から話をしており、人口を増やして府中町を活性化させるためということは内容としては理解しているが、どうやってそれを実現するのかというところが少し見えにくいという印象を受ける。

未来は誰も見えないので、誰かが“こうしたいので、こういう方法を取る”という説明をしないと、結局は今のままでいいといった議論になってしまう。皆で未来を目指すといった形が見える説明をすることが次につながるのではないかな。

花田委員が言われたとおり、もう少し先を見据えることが大事かと思う。人間とは、やはり今の自分にとっての損得感情というのが一番分かりやすいし、現状を変えたくないという心理があると思うが、今府中町が直面しているのは、5年後や10年後、20年後の次世代の人たちに何を残すかといった判断であり、その判断材料がほしいという意見が多いと思う。そのため、ぜひ戦略をもう1歩進んだ形で示していただきたい。

(梶川委員)

私は小学校4年生の時に府中町に移り住み、現在まで過ごしてきた。当時は小学校の周りは田んぼだらけであったが、今ではこの場所で良かったと思っている。

私としては、府中という名前に誇りがあると思っている。明治22年頃に市町村ができた時には、広島県内で1,170くらいの市町村があったが、それが現在23になったという歴史的事実がある。府中町では過去2回の合併論議があり、住民が否定してきたことがあるが、行政としては効率を考えるため、今後も広島市への合併の話が必ず出てくると思う。合併すると府中町は埋没してしまうので、府中という名前を残すためには、やはり単独で市制を取るべきだと思う。

これは歴史であり、お金や法律では判断できないことである。府中という名前に私は意味があると思っているので、名前を残そうと思ったら市制を取っておかないと危ない。1,170あった市町村が23になった中で、当時のままの町域があるのは坂町と府中町だけである。この府中町が市になることの意味は、ものすごく大きいと思う。

(益村委員)

今の話で、府中町がこのままだと合併をするかもしれないとあったが、その可能性についてどう考えているか。

(町長)

梶川委員の言われたことは将来的な話であって、今すぐというわけではないと思うが、実際これまでも、広島市が政令市に移行するにあたって昭和47年頃に広島市

から合併の申し出があったほか、その後の平成の大合併の際にも合併の議論があった。

このように、広島市は周辺との合併の意向を持っていた事実はあるが、平成の大合併にあたっては、国全体が行政の効率化ということで市町村合併を進め、広島県としても合併パターンを示して合併を進めていたという背景があった。

今は状況が変わっており、国においても合併を進める法令は無くなり、基本的には自治体間の連携協力関係の中で都市圏の活性化を図っていくようにスタンスが変わっている。当町としても、広島市が中心になった 200 万都市圏構想に参加し、町の個性を発揮して圏域の発展に貢献していこうと考えている。

将来的にはどう変わっていくかは分からないが、現時点では合併の動きは全く無いということになる。

(益村委員)

それは現時点の話であり、将来的に人口が減ると合併する可能性はゼロではないということか。

(町長)

それは否定できないが、合併は相手があつての話である。合併しようにも相手がないという場合もあり、これは各都市の経営の選択肢であると思う。

(益村委員)

こういった想像の域になっているところや、もしかしたらこうなるかもしれないということについても、判断の材料として聞くことができればいいのではないかと思う。

(町長)

補足すると、昨年度に町の 10 年間の計画ということで第 5 次総合計画を策定しており、これを基に行政を進めている。これを進める中の一つの方法として、市制施行を選択肢として進めていきたいと考えている。つまり、市制施行だけで人口を維持するという話ではなく、色々な事業を進める中で、暮らしやすい町をしっかりとアピールし、人口維持を図っていこうとしている。

また、過去からの経緯の話として、府中町は明治 22 年に村になり、昭和 12 年に町になっている。当時の人口は 5,000 人くらいであったが、東洋工業ができ、キンビールの工場ができた時期であり、農村から町に変わってきたということがあった。その中で、県に申請し、村から町へ変わったということであり、当時はお祝いをしたという記録も残っている。

その 5,000 人の町が発展して今では 5 万人になり、市になる条件をクリアできる
ところまでできたということであり、これは、過去の色々な人による、この町に対す
る努力の結果であると言えると思う。

この段階から、次の段階に行かなければならないのではないかというのが私の思
いである。そのため、これまで皆さんが築いてきた経緯を踏まえて次世代にバトン
タッチし、未来のまちづくりについては、市という自治体をベースに未来の人に考
えてもらいたいと思っている。

今は、今後の 10 年間について考えているが、それから先の未来については、市に
なった上で考えてもらいたいという思いである。過去からの町をしっかり受けとめ
た上で、市になれる条件が整ったので次に行こうということである。

これまで日本全国で、5 万人を超えた町で残っているのは府中町だけである。5
万人を超えたら次のステップに行くというのが地方自治の制度から言えば当然の流
れになっており、ぜひ府中町もそういう流れに乗って、今後の発展に向けて次の世
代にバトンタッチしていきたいというのが私の思いである。

(花田委員)

関心事項はそこだと思う。

ステップアップすることでどうなるのか、なぜ町では駄目なのか、なぜ市になら
なければならないのか、それを判断するには今頂いている情報の中では判断がつか
ない。そのあたりをクリアしていかなければならないと思う。

(坂本委員)

町では第 5 次総合計画と単独市制の検討を並行して進めているということである
が、単独市制が将来のまちづくりを実現するための一つの手段ということであれば、
その位置付けや優先順位はどうなるのか。その中でも、優先順位について明確に示
すことで、住民の理解がさらに深まるのではないかと考えている。

もう 1 点質問だが、単独市制を選択した場合、短期的な移行コストは説明いた
しているが、中長期的な行政運営の課題やリスクについての想定や、その対策につ
いて考えがあれば伺いたい。

(町長)

町から市に変わっても、財政的に大きく変わることは基本的には無い。財政的に
一番大きなものとしては、地方交付税の中に特別交付税というものがあり、これは
行政で臨時的にかかった経費を国が措置するものであるが、町の場合、県が国から
一旦受けて、県が配分をすることになっている。市になると直接国から配分される
ことになるので、国に対しての発言力が増えることはあると考えている。制度上は

そういったものがあるが、それで措置額が増えるかは分からないところである。

実際の制度で言えば、本来は市になると福祉事務所の設置が必要になるが、当町では既に設置しており、行政の中身で大きく変わるものは基本的には無いということになる。公害関係の規制など、細かな事務が新たに増えることはあるが、それに伴って財政的な負担が増えることや、逆に補助金が入ることも無いので、基本的には財政運営のリスクはほとんど無いと思っている。

(副町長)

交付税以外の財政面について説明すると、先ほどから、人口5万人を維持するという目標を掲げて第5次総合計画を作成したと説明をしている。この人口維持の目的は税収を維持するということであり、これが、府中町が単独自治体であり続けるための力の源泉になる。

その源泉を守り、それを土台に発展、成長させていくといった、成長戦略を描いていくというところが、資料に反映できていないというご指摘の部分だと思う。市制を施行しても人口は減少するかもしれないが、市制施行を契機に、シティプロモーションをはじめ第5次総合計画に掲げている施策をより加速させていくところをどう示し、説明するかということが課題であると考えている。次回以降そういった議論ができるようであれば、町の考えを示しながら、皆さんの知恵を借りたいと思っている。

最後に、先行して市制を施行した自治体を紹介すると、調査した8自治体のうち、3自治体では人口が増えている。他の3自治体は若干人口が減ったが5万人は維持できている状況であり、残りの2自治体が5万人を切っている状況である。これは日本全体が人口減少局面になっている中で仕方の無いところはある、地理的条件もあって一概には評価できないが、事実としてはそういうことがある。

そのため、人口の増減については、市制施行を一つの契機にして、どうやって全国にアピールしていくかというところがあると思っている。

(石田委員)

一つ残念に思ったことは、第1回審議会で話した内容があまり反映されておらず、説明会でも同じような質問をされているということである。最初の段階から何ヶ月も経っているが、時間がかかるほど、マイナスの印象が強くなる。

若い世代の方からSNSなどで直接意見を頂くことが多いが、はっきりと分からない、賛成も反対もできないという意見が一番多かったので、やはり情報量が少ないということが一番の原因かと思う。

賛成の方は愛着がある等の意見だったが、私が質問や回答を全て見た上で思ったことは、人口増加のために市制に移行する、注目度をアップさせて人口を増やす、

進学や就職で出た若者を引き戻すと書かれていることについて、話が飛躍しているという印象がある。

メディアが来て話題になる、それで注目されて人口が増えるというのは、可能性としてはすごく低いと思う。実際に、第1回審議会の際は多くのメディアが来ていたが、今回は数社だけであり、こういった話題性は最初が一番強く、だんだん減っていくものである。今は昨日起こった地震のことが1日中テレビで流れているが、こうなると取り上げられるニュースが少なくなることもある。

話題が集まりそれを見て人口が増えるということは分かるが、これはあくまでもファーストアクションであるので、説明としては控えて、違う情報を伝えるようにしてもいいのではないかなと思う。

あと、出た人を戻すことは結構リスクがあると思うので、やはり情報をたくさん提供してプラスなイメージを与え、判断をしていただける状況を作ることで、プラスの方向に動くのではないかなと思う。

(二宮委員)

私自身、生まれも育ちも府中町であるが、府中町は立地も良く、買い物にも困らない、雇用もあるということで、本当に住みやすい町だと思っている。そういう状況であるため、これまでの議論にもあったとおり、困ってないのになぜ変わらなければならないのかという考えがあると思う。

今回の市制施行の話にあたっては、メリット・デメリットは何かといった議論になってきているが、住民にとっては、今の暮らしがより良くなるかどうかという点が最大の関心事である。市制移行か、町のままか、あるいは広島市との合併かというのは手段の話であって、我々の生活が良くなるかどうかを知りたいというのが、本当の願いだと思う。

そういった観点で、総合計画がそれに当たるのであれば、住民説明会でもそれを中心に話していただき、そのためには市制移行が非常に重要な手段だということが理解できるようにしていただくことが大切だと思う。私自身、総合計画のことを詳しく聞いたことは無いので、改めて審議会の委員や住民に理解してもらい、これが実現すれば暮らしが良くなる、その手段として市制移行は必要であるというステップが必要ではないかなと感じる。

これ以上賛成や反対、メリットやデメリットの議論をしても、住民の中で分断が広がるばかりである。本来議論したいことや目的は、この町を良くするためにどうするかという話だと思うので、3回目の審議会ではそういった点にフォーカスして議論すれば、より有意義なものになるのではないかなと思う。

(花田委員)

先ほど副町長が市になってから説明すると言われたが、それは順番が違うということを皆言っているのではないか。説明を尽くして、住民がやらないといけないうち思って初めて、行政がリードできると思う。

このまま行政と住民の感情が乖離していくと、もし市になっても、やろうとしていることが実現できないと思う。そういった住民感情を引っ張っていくことが、行政の力の見せどころだと思ひ、信頼を得る良い施策にもなるので、そこを十分踏まえて尽力いただきたい。

(竹中委員)

今まで住民説明会を開催し参加人数が 266 人とあったが、住民の意識や関心がいように感じる。私は市制移行に賛成ではあるが、5 万人の町の議論をするに当たり、266 人というデータでは先々問題が起こると思う。皆が手を挙げて賛成するまでにはならないとしても、過半数が賛成するなどの状況があればと思う。

そういった盛り上がりには欠けるところを是正し、今後も全住民に訴えていただきたいと思うが、町の考えはどうか。

(町長)

最初にもお答えしたが、説明会に集まる方は非常に主張されるが、それが全体の意見かは分からないし、全住民に伝わっているのかということもある。説明会は8 月初めで一通り終わるので、その後にはどういった方法で伝えていくかを考えているところである。

説明会でよく私は言っているが、これを一つのシティプロモーションとして捉えてほしいと考えており、広告宣伝を打って東京や大阪の方から人を呼んでくるような、府中町を注目してもらふ一つの宣伝材料として考えているものである。

住民投票といった話も出てくるが、町を二分して争うものではないと思っているので、アンケートで意見を聞き、それで判断したいと言っている。府中町が根底的に変わるものではないので、もっと気軽に考えてほしいと説明しており、それでは判断材料が無いとも言われているが、実際は変わらない部分が大きいということがある。

一方で、対外的にアピールする部分が大きくなるので、そういった面では将来的にはプラスになると考えている。マスコミの扱いも違ってくるし、府中町の暮らしやすい便利なところをアピールするためのセールスポイントとして市を使っていきたいと言っているが、内部的には変わる部分が無く、生活が変わらないということで、住民の皆さんにはなかなかご理解を頂けないところがある。

ただ、具体的なものが無いと言いくところではあるが、将来のまちづくりに

は大きなプラスになることをアピールする方法を考えていかなければならないと思っている。具体的な方法は今持ち合わせていないが、全町民向けの説明会が終わった後も、団体からの申し出があれば出前講座のような形式で説明ができればと考えている。

イベントを行うことはやりすぎかもしれないが、色々な意見を聞きながら盛り上げる方法を考えていきたいと思う。

(内藤委員)

先日、婦人会へ説明に来てもらい、その後、会の中で皆に意見を聞いてみたが、多くの方が今と変わらないならば町のままでいいと言っていた。その理由の一つとして、住民変更の手続きなどが面倒であるということがある。

説明会資料に手続きは少ないという説明があったが、私のような1人暮らしの高齢者や障害のある方など、移動が困難な方やインターネットが使えない方にとっては大きな負担がかかるため、不安を持たれているのではないかと。

個別に相談できる窓口を設置するなど、町が支援するということがあれば住民の安心につながるのではないかと。

(町長)

田村委員の意見でアンケートについての話があり、皆様にもご意見を伺いたいが、今はアンケートを各世帯に配布し、世帯で相談して記入してほしいと考えている。その中で、世帯内で意見が分かれる場合はマルを書かずに出してもらえればと考えているが、それでは不親切かとも思っているところである。

(田村委員)

クーポンを配る時は家族構成を把握して送付している。世帯人数を把握し、世帯ごとに区別して配布することが困難であると書いてあるが、それほど困難なことなのか。

(町長)

いくらお金がかかっても良いというのなら、一人ひとりに文書を出して回答してもらうこともできるが、どこまでやるかという話である。これまで全国で市制施行をした自治体では、広報紙に挟み込んで配布する方法が一般的であったため、当町でも同様に考えている。

ご質問があったように、それで不満があるというのなら、どのような方法が良いのかということになるが、費用対効果の話もあり、その一方で、一部の人を抽出して行うのもどうかとは思っている。

(田村委員)

誰もが納得できるアンケートの取り方を考えていただければと思う。

(町長)

今の考えは家族の中で意見が分かれたらそのまま記入せず出してもらいたいということであるが、改めて内部で検討したい。

(上之園会長)

前回の会議ではメリット・デメリットをもっと具体的に示していただきたいという話であったが、今回は更に深い議論をいただいた。その中で、市か町かというのがゴールではなく、何のためにするのかという、その先のビジョンについての議論があった。将来の住民が、あの時の決断で良かったと思えるよう、今少し大変なことがあるとしても、それでもやろうというような、期待や夢を持てることが重要であると思う。

そして、将来だけではなく、今住んでいる住民の暮らしが良くなるのかということもある。Q&Aだけでなく、“それならばそちらにしよう”と思えるような具体的な資料を出していただきたい。

皆、府中町を非常に愛しており、府中町のために頑張るということでは一致していると思う。次回の会議でも、それぞれのご意見や、各団体において集めた意見を頂ければと思う。

それから、手続きとして、審議会では住民説明会の結果やアンケートの結果が非常に重要な資料となる。このアンケートが妥当であるかといった意見が出たので、我々としても客観的な判断ができるよう、工夫していただきたいと思う。

4. 事務連絡

5. 閉会